

檜葉町駐在現地確認概要(平成29年2月20日～2月24日)

確認日	確認目的	確認箇所	確認状況	プラント関連 パラメータ
2月20日	フランジ型タンクの予防保全 工事の状況確認	Eタンクエリア	<u>○フランジ型タンクからの漏えいを未然に防止するため、予 防保全工事が行われていることから、その計画の聞き取りと 現場の確認を行った。フランジ型タンクの1段目のフランジ部 に、エポキシ系の止水材を塗布し、漏えいを防止する計画と の説明を受けた。現在、EエリアとG6エリアで工事が行われ ており、並行作業に切り替えたことにより、半月ほど完了が早 まることだった。全てのフランジタンクエリアに施工が完 了するのは、7月上旬予定であることだった。</u>	12時45分現在
	構内排水路付け替え工事中 の電線管の損傷に係る状況 確認	固体廃棄物貯蔵庫第1棟付 近	<u>○当日発生した電線管の損傷の疑いのある事象について、 現場確認した。現場はA排水路付け替え工事を実施している 箇所、試掘により発見された管を切断しようとしたところ、 火花が出たように見えたことだった。実際に電線管を 損傷したかは調査中であった。</u>	
	燃料デブリ等への注水に関 する機動的対応の手順書等 の確認	免震重要棟	○地震や津波等により原子炉注水が停止した場合の措置の うち、消防車を用いた手順について聞き取りを行った。高台 35m盤のろ過水タンク周辺に設置した消防車でろ過水等を送 水し、10m盤に置かれた消防車で中継しながら、既設のヘッ ダーを介して炉注水を行うとの説明を受けた。また、ろ過水タ ンク等が使用できない場合には、消防車で海水を汲み上げ、 可搬式ヘッダーを介して炉注水を行うことだった。 ○使用済み燃料プールへの注水手段については、消防車や 車載式ポンプにより、ろ過水タンク等から水を送水し、各号機 の建屋に設けられた注水点から水張りを行うことだった。 炉注水と同じく、ろ過水タンク等が使用できない場合には、消 防車で海水を汲み上げ、仮設ヘッダーを介して水張りを行う ことだった。	
2月21日	SARRY吸着塔ラック設置工 事の状況の確認	吸着塔一時保管第四施設周 辺	<u>○吸着塔一時保管第四施設において、第二セシウム吸着装 置(SARRY)の吸着塔を保管するラックが追設されているこ とを確認した。現在使用前検査を待っていることであ った。</u>	13時15分現在
	1000tノッチタンク移設場所の 状況の確認	吸着塔一時保管第四施設周 辺	<u>○1000tノッチタンクの移設作業の状況を確認した。まだ一部 のノッチタンクが移設されていない状態であった。移設された タンクの南側にある排水口には止水のための堰が設けられ ていた。</u>	
2月22日	増設多核種除去設備A系 ブースターポンプからの滴下 事象への対応状況の確認	増設多核種除去設備	<u>○2月17日に発生した増設多核種除去設備(ALPS)A系プー スターポンプからの漏えいについて、応急措置の状況を確認 した。漏えい箇所周辺には堰と滴下した水を受けるためのポ リタンクが置かれていた。確認時にはポンプは稼働してい たが、ポンプからの滴下はなかった。今後、漏えいの原因と なったメカニカルシールを交換する予定のことだった。</u>	13時05分現在
	3号機原子炉注水量低減操 作の確認	免震重要棟集中監視室	○3号機原子炉注水量の低減操作に立ち会った。炉心スプ レー系流量が約2m <sup>3</sup> /hから約1.5m <sup>3</sup> /hに低減された。操作前 後で特に原子炉温度に大きな変化はなかった。	
2月23日	地下水ドレンポンドサンプリ ングラック設置状況の確認	1～4号機護岸	<u>○地下水ドレンポンドにサンプリングラックが設置されたこと から、状況を確認した。ポンドA～Eのうち、A、B、Dにラック が設置されていた。</u>	11時51分現在
2月24日	ブルータンク及びモバイル型 ストロンチウム除去装置移設 先の状況の確認	吸着塔保管第四施設周 辺	<u>○鋼製横置きタンク(ブルータンク)とモバイル型ストロンチウ ム除去装置の移設先の状況を確認した。現在は重機が置か れ、まだ、ブルータンクや除去装置は移設されていなかった。</u>	13時08分現在
	H5タンクエリアフランジ型タ ンク解体作業等の状況確認	H5タンクエリア	<u>○H5タンクエリアのフランジ型タンク解体工事の状況を確認 した。2基のタンクの撤去が完了していた。前回確認時には 掲示されていなかったダスト濃度の測定結果が掲示されるよ うになっていた。</u>	

※プラント状況については、プラント関連パラメータをご参照ください。